

SRIMfit インストールガイド (2) ～技術メモ～

Update Log :

2017.03/24 ver.2.12 テクニカルメモを分けて掲載。

目 次

- * マクロの内容を確認してからインストールすべきかを判断したい
 - SRIMfit には、Excel のマクロ付きファイル が多く含まれています。
「どうも人が作ったマクロ付は気持ちが悪い！」という方は、
ご自分で、マクロ記述などの内容を確認の上、インストールするかご判断下さい。
- * ver. 2.11 以前を利用して下さっていた場合の、移行方法
- * SRIMfit.xlsm を編集する場合の AddInモジュール設定

マクロの内容を確認してからインストールすべきかを判断したい

- SRIMfit には、Excel のマクロ付きファイル が多く含まれています。
マクロ記述 (Excel VBA :Visual Basic for Application) にはプロテクションをかけていません。
ご自分で、マクロ記述などの内容を確認の上、インストールするかご判断下さい。

(1) VBAマクロを見る準備

《インストマニュアル(1):方法1:(1.1) Excelの準備》を参照して、
「開発」タブを表示し、マクロ実行の許可をしておいてください。

(2) マクロを見る

《ユーザーマニュアル: SRIMfit の構造について》を参照して、
VBA記述を見ることが出来ます。

本体の SRIMfit.xlsm は、他のモジュールなどを呼び出すことなく、その中に包含している
ワークシート(SRIM-2013のOutputファイルを自分でコピーした表)を参照しているだけです。
プロテクションがかかっていませんので、ご自分で必要に応じて、
ワークシートや VBA関数を拡張して下さい結構です。

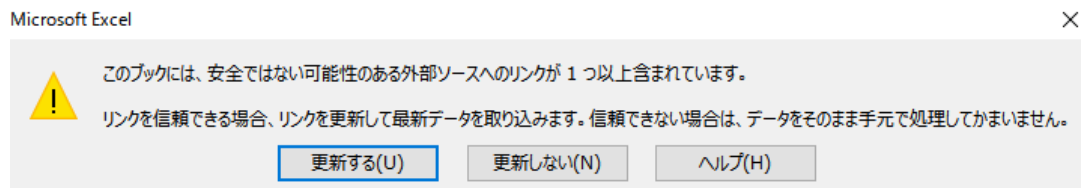
(3) 実は AddInモジュールとしてインストールしなくても、SRIMfit 関数を使う事は可能です。

《ユーザーマニュアル:技術メモ編:AddInモジュール以外の使い方について》をご参照ください。
本体の SRIMfit.xlsm に直接、ご自分用の計算シートを追加してご利用して下さい結構です。
この場合は、AddInモジュールとしてインストールする必要はありません。

でも、やはり使い勝手を考えると、AddInモジュール化したほうが断然便利です。
是非 AddIn モジュール版 としてお使いになることをご勧奨してみてください。

ver. 2.11 以前を利用して下さっていた場合の、移行方法

今までお使いになっていた SRIMfit関数をリンクする エクセルファイルで、「リンクエラー」が発生すると、エクセルを開いた直後に、次のようなメッセージが表示されます。



さてこの場合、「更新する」と「更新しない」のどちらにすべきか、迷うところです。色々な対処法が考えられますが、以下では

AddIn モジュールを Officeシステムアドインフォルダー ヘインストールが済んでいる場合を想定して説明します。

(1) 先ず「更新しない」を選択

して、このメッセージから抜けてください。何故リンクエラーが発生しているのかを調べてみることにします。

(2) SRIMfit 関数を参照しているセルの、関数式を確認 してみてください

例えば、次の様に 長～い 記述式 になっていませんか？

例1) = 'C:¥Users¥ユーザー名¥AppData¥Roaming¥Microsoft¥AddIns' ! srInfoIonZ(C\$3)

例2) = 'C:¥Program Files¥Microsoft Office¥¥¥LIBRARY¥SRIMfit.xlam' ! srInfoIonZ(C\$3)

文献02)に詳しく紹介されているように、

参照先のワークブックやアドインブックが開かれている状態では、

= srInfoIonZ(C\$3) のように、短く「関数名のみで表示」されます。

参照先のブックが閉じている状態では、

= '参照先のフルパス' ! srInfoIonZ(C\$3) のように「フルパスが付いた表示」となります。

この「フルパス表示」は、

自分で意図的に記述していなくても、ブックを保存する時に自動的に付加されます。

これが最近バージョンのエクセル仕様のようで、時に非常に厄介な機能です。

参照先のリンクが切れた状態で 保存 してしまったファイル や、

保存する時はリンクがつながっていたけれど、再度開いた時にリンク切れが発生した場合 は、

今まで短い「関数名のみ表示」で記述していたにもかかわらず、

保存された時の環境で参照していた「フルパス」が付加された長～い表示に自動修正されてしまうようです。

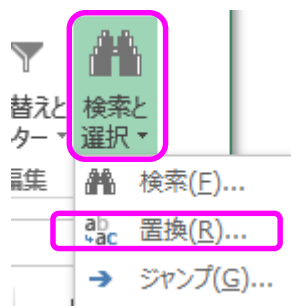
ま、仕様ですから、致し方ないので、その様な症状が発生した場合の対処法について、次に説明します。

文献01) http://addinbox.sakura.ne.jp/ktfunc_0300.htm AddinBox 角田桂一氏の記事

文献02) http://addinbox.sakura.ne.jp/Excel_Tips21.htm AddinBox

(3) 「フルパス表示」から、「関数名のみ表示」へ手動で戻す。

[HOME: 検索と選択: 置換] タブを用いて、ブック内で一括置換します。



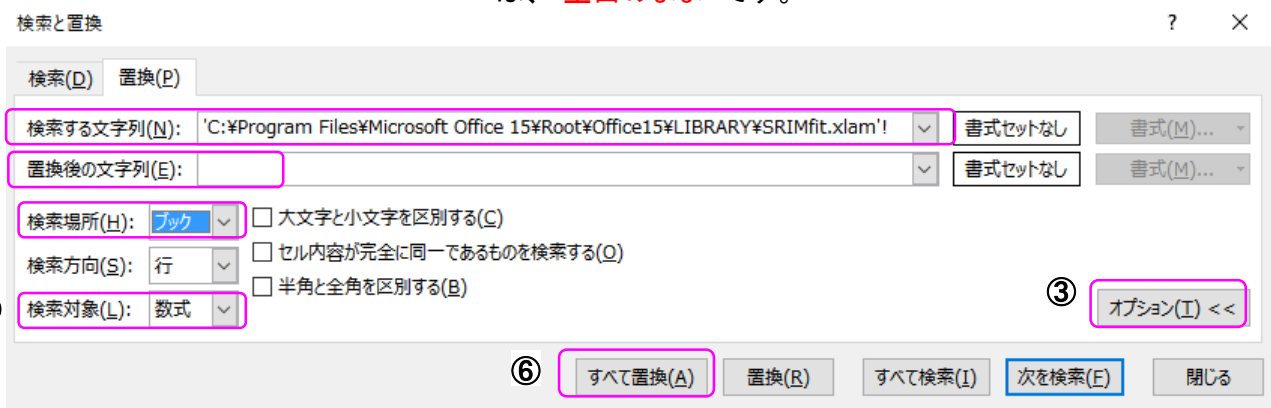
① 検索する文字列

には「フルパス」部分の文字を指定します。即ち、
‘C:¥~ ¥~ ¥~’ !

で、**シングルクォート** から **シングルクォート** と**!**マークまで
です。間違えの無い様に指定して下さい。

② 置換後の文字列

は、**空白のまま** です。

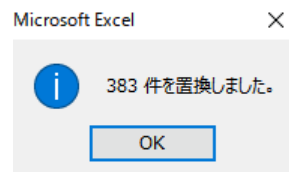


③ オプション メニューを表示して

④ 検索場所 は、**ブック全体** を指定します。

⑤ 検索対象 は、**数式** についてです。

⑥ **すべて置換** をクリックして、置換終了までしばらく待ちます。



この「一括置換」操作は、面倒ようですが、
何故リンクエラーが発生しているのかを(2-2)のように調べてから対処できるので、確実です。

SRIMfit.xlsm を編集する場合の AddInモジュール設定

SRIMfit のマクロが記述してある SRIMfit.xlsm を編集したい場合があります。

例えば、Srim 計算結果シートを追加したい場合などです。その時は、以下の手順に従って下さい。

(1) AddIn を解除する

編集したい SRIMfit.xlsm を「開く前に」、アドインを解除しておいた方がよいです。

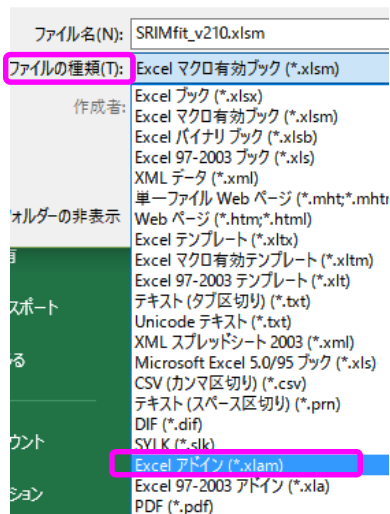
既に読み込まれている AddIn モジュールの SRIMfit.xlam と、これから編集する SRIMfit.xlsm の両方の関数が、関数リストに登録されてしまうので。

《インストールガイド(1): (1.6-1)》に示したように、AddIn を解除してから、エクセルを再起動後に、SRIMfit.xlsm を編集して下さい。

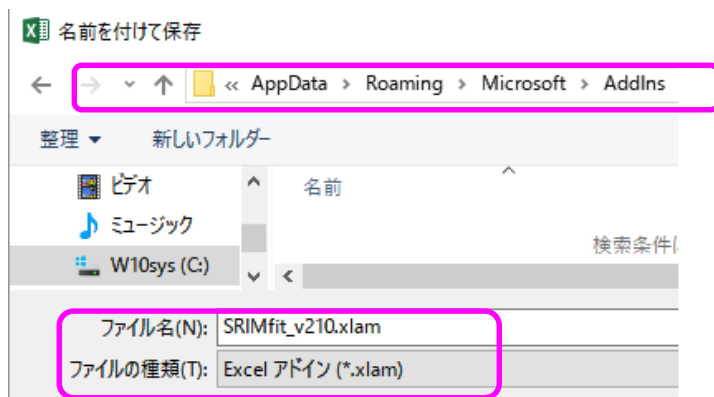
(2) AddIn モジュール形式 (.xlsm フォーマット) で保存

[ファイル:名前を付けて保存]で、ファイルの種類=Excel アドイン(*.xlam) で保存します。

保存の前に、前述の《インストールガイド(2): 移行方法》のように、「フルパス表示」になっていないかを確認しておいてください。



保存場所は、Excel が指定してくれます。ローミングアクセスの場合、C:\Users\ユーザー名\AppData\Roaming\Microsoft\AddIns です。



尚、～\ユーザー名\AppData は、通常は非表示フォルダーです。表示させるには、エクスプローラの[表示: 隠しファイル]にチェックを入れます。

(3) SRIMfit.xlsm を、保存しないで、エクセルを終了します。

ここで、保存してから終了すると、リンク先がローミング用 AddIn フォルダーに「自動的」に置き換わってしまいますので注意です。

(4) 保存された SRIMfit.xlam を、手動で移動

ローミング用 AddIn フォルダーに保存された .xlam ファイルを、《インストールガイド(1): (1.2-3) や (2.2-3)》に述べた様に、指定された AddIn フォルダーへ移動して下さい。そして、有効な AddIn モジュールのチェックを入れてください。以上で、修正が完了です。